

平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	現代に通じる教訓を通して古典に親しませる実践的学習指導の研究
報告者氏名・所属・職名	菅原利晃・札幌校・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	菅原利晃・札幌校・准教授
研究内容及び成果の概要	
<p>1 本研究の目的</p> <p>○ 古典の世界と現代のわれわれの世界とのつながりを読み取り、その意義を考えることで、「古典に親しむ」ことができる</p> <p>この仮説に基づき、本研究では特に、『徒然草』「家居のつきづきしく」の章段に焦点をあてる。古典の世界に直接触れるにとどまらず、作者兼好の評から古典の世界と現代に通じる自分なりの評価を持ちうることのできる教材である。</p> <p>本研究では、授業開発の一方策として、特に「教訓」という視点から古典の世界と現代のわれわれの世界とのつながりを考えさせることを中心に据え、古典の世界に学習者を近づけ親しませることを試みるものである。</p> <p>2 本研究の内容</p> <p>本研究は、古典教材に含まれる「教訓」に着目させるという学習活動によって、古典に親しませることをねらいとしたものである。教材としては、学習者にとって比較的「教訓」の読み取りがしやすい『徒然草』第十段「家居のつきづきしく」を用いて授業を構想した。</p> <p>授業では、本文全体の読解の後、ワークシートにまとめさせ、どのような「教訓」（教え・知恵）が読み取れるかを発表させた。それをもとに、自分の読みとった「教訓」（教え・知恵）と比較して訂正したり、補足を加えて詳しく書き直したりさせ、現代に通じる例をまとめさせた。</p> <p>（ワークシートの内容例）</p> <p>1 どのような「教訓」（教え・知恵）が読み取れますか。次の三つのうちのいずれかについてまとめなさい。</p> <p>① 文章前半から ② 後徳大寺大臣の行動（西行の言動）から ③ 綾小路の宮の行動（人の語ったこと）から</p> <p>2 他の人の考えを聞いて、「教訓」の訂正や補足があれば書きなさい。</p> <p>3 2の「教訓」をもとに、現代のわれわれの生活にあてはまる事柄をあげてまとめなさい。自分の経験や見たり聞いたりしたことなどを用いなさい。</p> <p>授業後の、学習者の感想では、「『徒然草』には教訓として今の時代にも通用する話が多い」と述べる学習者もあり、古典を読みそこから「教訓」を引き出して、現代の自分の生活や世界についてその「教訓」が生かせる例を見つけることへの発見や興味を述べる者が多かった。</p> <p>古典から現代に通じる考え、「教訓」（教えや知恵）を見つけ、それらにあてはまる現代の事柄を見つけ出しており、古典の世界により近づいたものと言える。</p> <p>また、中には、「他の章段を読みたいと思った。」というように、古典におもしろみを見つけ、読書への意欲を述べる学習者や、授業で扱う古典を単なる読解のためだけではなく生活に生かしたいと述べ、文法と古語の理解と口語訳だけで終わってしまいがちな古典に対して、それに自分を近づけ役立てようという意欲を見いだしている学習者もいた。</p>	

3 本研究の成果

学習者は、古典から現代に通じる「教訓」（教えや知恵）を見つけ、古典の「教訓」（教えや知恵）にあてはまる現代の事柄を見つけ出すことができた。

古典から現代に通じる考えや思いを見いだすことは、古典を読む意義を考えることであり、古典に自分の考えや思いを近づけ、古典に親しむことでもある。ここに、「教訓」に着目させる授業の学習効果がある。

4 今後の課題

今後の課題としては、他の古典教材の場合において、いかに現代に通じるものを学習者に読み取らせるかということがある。

今回の研究では、『徒然草』という比較的「教訓」が読み取りやすい古典教材を用いたが、他の古典教材では「教訓」の読み取り以外の、それぞれの古典教材の特性・内容に沿った形での古典教材へのアプローチの仕方、現代に通じるものを読み取らせる学習活動のあり方があるはずである。

それぞれの古典教材のもつ力を見極め、学習者が古典に向かい親しむことができるように、授業の研究・開発につとめたい。

成果の公表の状況

【学術論文】菅原利晃（単著）、『徒然草』第十段「家居のつきつきしく」の授業 —現代に通じる「教訓」を読み取らせることで古典に親しませる— 『解釈』（解釈学会）第65巻第5・6号、2019年6月1日発行

教育現場で活用可能な分野・教材等

中学校、高等学校での古典の授業において、「古典に親しむ」ことをねらいとする授業づくりを行う際に、成果として得られた指導内容・方法は、活用できる。

配布又はダウンロード可能な資料

問合わせ先

代表者：菅原利晃
電 話：(011)778-0397
mail : sugawara.toshiaki@s.hokkyodai.ac.jp